

### 海禅寺新聞 第18号

西日本を襲った豪雨災害の後、記録的な酷暑が続いています。信州が全国に誇る避暑地、軽井沢でも、30度を超える猛暑という報道があり、とても驚かされました。戦国の時代、武田信玄の帰依を受け、武田一族と縁の深かった快川紹喜（かいせんじょうき）という傑僧がいました。しかし武田勝頼が滅亡の際、とあることから織田信長の怒りを買って、寺に火をつけられて焼死してしまいました。その際に発した「心頭滅却すれば火もまた涼し」という辞世は有名です。これは元々、中国は唐の時代に作られた詩句が典拠ですが、「どのような苦難や困難に遭遇しても、心の持ち方一つで、苦難や困難を感じなくなる」という意味です。

この言葉に習って暑さに対峙できればとは思いますが、しかし日中は30度どころか40度を超えるこの猛暑、心の持ちようだけで対応するのは難しそうです。また、何はなくとも健康な心身を保つことが大切です。空調を整え、食に気を配りながら、この夏を元気に乗り切りたいものです。

※「熱中症」に関しては、環境省のホームページに『熱中症予防情報サイト』が新設されています。インターネット環境をお持ちの方は、ぜひご覧になってみてください。



### 生きる力・93号 送付

真言宗智山派が発行する、檀信徒の皆さまの情報誌「生きる力」を同封しました。今回の特集は『お寺の行事に参加しよう』ご先祖さまを供養する年中行事、お施餓鬼会・お盆・お彼岸です。現代を生きる私達を支えてくれているご先祖さまについてわかりやすく書かれています。また今回から始まる新しい連載も掲載されています。お盆の一時、ぜひ皆さんでお読みください。

### 施餓鬼会のご案内

恒例の施餓鬼会法要を左記の通り勤修いたします。ぜひご参加ください。本年も法要前の法話に代えて、「落語」の時間を企画いたしました。お話しただくのは今年で3年目、落語芸術協会所属で真打の落語家、立川談幸師匠です。日本が誇る古典芸能の一つである落語から、皆さんの「今」を見つめる一時をお過ごしいただければ幸いです。どうぞご期待ください。



日程：平成30年8月12日（日）  
時間：10時 諸報告  
10時10分 落語「子はかすがい」  
11時 施餓鬼法要  
12時 お斎（とき）

※詳細は、同封の別紙詳細をご覧ください。

### 海禅寺数珠つなぎ

海禅寺にかかわる皆さんの声、お数珠のようにつなげ、ご紹介していきます

### お檀家 酒井分長さん 6人目

今回は、寺で主催する巡礼には毎回参加をし、また奥様の月命日には欠かさずお墓参りをされている、篤信のお檀家、酒井さんです。



### 海禅寺さんとの出会い

人との出会いについて考えると、いつもその偶然性に思いが募ります。そして人にとって、ある出会いのもつその意味は、極めて深く深いものがあるように思われます。一見たわいのないものと思われる出会いが、後の重大性に通じていく神秘さを感じることもあり、不可思議さを覚えます。

平成15年3月1日、妻が数年来の闘病生活の末、残念ながら仏の世界へ旅立ってしまいました。私はかつてより学校教員として、バスケットボールに取り組んでいた際、海禅寺のご住職との交友がありました。その縁を頼りに、受話器を取り「妻の事を何とか送っていただけませんか」と、正に漆黒の闇の中の心情で、夢中で海禅寺さんへの電話連絡をしたことを思い出します。ご住職からは快諾をいただき、すべての葬儀の一切をお願いし、更に檀家に加えていただきました。

心あたたまる葬送とその後のお寺さんのいろいろな行事を含め、ご住職の法話、副住職の「仏教さんこんにちは」等々の仏教勉強会など、自分にとって妻を送るといふ何とも悲しい時に、しつかり前を向いて

いけるよう、心に寄り添っていただけたことに、非常にありがたく感謝しております。また幾多のお寺さんの行事の際の法話や勉強会の話の内容も、毎回ほぼ同じ時間、同じ空間で聞く訳ではありませんが、それぞれ私という人間の、心の働きや認識、その時の心情など、たとえ同じ話を聞いても自分のつくり出す人生観や世界観の違いで、心に残る思いは大きく違ってくるように感じています。

そしてお寺さんで計画していただいた2回の四国遍路の旅は、副住職さんが案内役である先達さんを勤め、7、8人の集団で実に有難く、充実の八十八ヶ寺の参拝ができました。極めて内容の濃い巡礼の旅から学んだ事を、今改めて同行した仲間と語り合いたい気持ちです。

終わりに、お寺での行事を通して学んだ事、心に残るいくつかの思いは、目には見えませんが、価値のあるものとして私の中に宿っています。それは自分以外の他者に対して手を合わせるような心持ちでいることで育まれる優しさ、そしてそのあたたかいぬくもりをもって、実際に人と接することかなとそんなことを感じております。こうしたことを胸に、毎朝仏壇に「おはよう」そして就寝前に「おやすみ」と合掌をして、一日一日を大切に過ごしていこうと思えます。

### 寺より

酒井先生は、私副住職が高校時代に体育やバスケットボールを教わった恩師です。その先生と2度も四国八十八ヶ所の巡礼をする機会に恵まれようとは、当時の私は夢にも思いませんでした。熱血の指導者として有名だった酒井先生が、奥様との別れという大変な一大事と向き合い、巡礼の各所で一人静かにそして真摯に祈る姿は、深く印象に残っています。



報告 第7回 聖天祭

毎年恒例の聖天祭が、今年も開催されました。お檀家の皆さんの力で再建された聖天堂を抛り所に、「大勢の方々に私たちの海禅寺へ足を運んで欲しい」と願い始まったこのお祭り。その思いは年々形を成していき、7回目となる今年の境内地は、これまで以上の大賑わいとなりました。また聖天祭はここ数年、お寺業界のメディアから注目をいただいています。当日も東京から2組の取材が入りました。



また8月には京都の中外日報という業界紙に特集が組まれ掲載されるそうです。有難いことですね。

総代世話人さん、お檀家さんを中心に組織される実行委員会を中心に、事前準備を重ねて臨むこのお祭り。当日、メンバーはスタッフとして会場案内等を行います。ある取材の方からは、「お祭りの内容もさることながら、こうして世代を越えた顔ぶれのスタッフさんが、細やかに対応する姿が、とても清々しく感じました」とお褒めの言葉をいただきました。

門前市のマンダラマーケットの出店数は55店舗。回を重ねるごとに全体的な規模が大きくなりつつありますが、あくまで無理をせず、関わってくださる皆さんの思

いに寄り添いながら、息の長い開催を引き続き目指して参ります。  
(今回は平成31年5月19日を予定)

告知 絵画教室

自分の手でゼンタングル編

初の試み、絵画教室です。講師の先生をお招きし、自分の手を題材に、ペンと紙で「ゼンタングル」という技法を学びましょう。

※ゼンタングルとは？ゼンタングルの「ゼン」は「禅」の意味。「タングル」は「絡まる」という意味の造語です。固定観念にとらわれないアート的一种です。



日程：平成30年8月26日(日)

時間：午後1時～午後3時

料金：1500円(材料費含)

定員：15名(先着順で締め切ります)

申込：電話またはFacebookで、寺にお

申し込みください。

◎講師：ムツシュさん(日本人)

高遠町在住アーティスト。武蔵野美術大学中退。5年前から線維筋痛症に罹り、闘病しながら芸術活動を行っている。

信州上田 お寺フズ 特別企画

告知 縁結び 2018

このたびは上田仏教会青年部(副住職が副会長)では、寺コン(お寺で行う男女の縁結び)を開催することになりました。左記内容を参照いただき、ご関心ございましたら、どうぞ寺にお問い合わせください。

日程：平成30年10月21日(日)

時間：午後1時～午後4時

場所：龍洞院(住所：上田市蒼久保232)

募集対象：20歳～45歳までの独身男女

(結婚歴は不問)

- ・結婚相手を真剣に探しておられる方
- ・結婚生活を維持できる心身ともに健康な方

募集人数：男性10名 女性10名

参加費：男性1000円 女性500円

※上田仏教会青年部の会長が副住職を勤める、曹洞宗の名刹、龍洞院さんを会場に開催します。お寺ならではの雰囲気と内容を準備してお待ちしております。

報告 境内整備

春には桜並木が綺麗な花を見せてくれる海禅寺の参道。しかしここ数年、敷石の凹凸が酷く、隣接する芙蓉保育園の子どもたちがつまづくことが多くなっていました。また参道下の石門は、梁(左右に渡している石棒)の接合部が劣化し、落下する危険性がありました。折しも大阪北部地震で、倒れたブロック塀の下敷きになり、小学校4年生の女の子が死亡するという痛ましい事故がありました。そうした中で、こうした事故に繋がることがないよう、こ

これらの環境整備工事を行い、この度、無事完了しました。また引き続き境内の景観整備のために、参道の土塀一部を増設する工事を始めています。ここにご報告しますと共に、お盆にお参りの際は、ぜひご確認いただけましたら幸いです。

【工事前】



この石門は、お檀家・大村博一さんのお父上である正さんが御寄進くださったものです。大村さんのご了解もいただき改修しました。

【工事後】



左右に渡してあった石を外し、左右の石柱を短くしました。また敷石は既存の石を一度全て剥がして、敷き直しました。

注目!

Instagramはじめました

この度、Instagram上で写真を共有できるソーシャル・ネットワーキング・サービス、『Instagram』を始めました。スマートフォンを盛んに使用する世代の檀信徒の皆様、寺の息吹が感じられるような海禅寺の「今」をお届けしたいと思えます。ぜひお子様、お孫様に、「海禅寺がInstagramはじめたそうだよ!」とお知らせください。

発行元 海禅寺